加茂市立須田小学校

学校データ
【学級数】
７学級
【児童生徒数】
８４人
【地域コーディネーターの有無】
有・無

地域から学んだことを自分や地域に生かす子供～ふるさと学習(須田 dy:すたでぃ）の取組～

１　はじめに

当校は、明治５年に「克己館」として設立され、加茂市内の小学校では最古の歴史と伝統をもっている。

地域の方々は学校に誇りと愛着をもち、児童は地域の連帯感の中で育てられ、純朴かつ素直な子供が多い。

しかし、近年少子化が進み、年々児童数は減少傾向にある。また、保育園から同じメンバーのため、人間関係が変わらず､自らの成長を実感する場面が少ない。

子供たちが成長を実感する上で､｢自分は相手の役に立っている」という自己有用感は重要な要素である。そこで、自分の生活を支える地域について調べ、学んだことを地域に役立てる学習(｢須田ｄｙ」と命名）を全学年に位置付け、地域から学んだことをこれからの自分や地域に生かす子供を育んでいる。

２　取組の実際

（１）須田 dy(ふるさと学習)とは

各教科学習で身に付けた学力を、友達と出し合い、身近な生活に生かすことを体験することが､｢須田ｄｙ科（すたでぃか）（ふるさと・須田学習)」のねらいである。

各学年の学習テーマを基に、次の３つの学習活動を大切にしている。

○【調べる】では

探検、インタビューや書籍などから必要な情報を引き出す力を活動（各教科学習で身に付けた学力を、意識して活用する場面づくり）

○【編集する】では

集めた情報を､自分たちのテーマ(つまり、学習課題）から取捨選択する活動（伝えたいことが、相手に伝わるための、複数の根拠を）

○【発信する】では

だれに・なにを・どのように伝えるのか､相手意識をもって形(ポスター、カレンダー、劇など）にまとめ、外部に向けて発信する活動（分かったことが、相手に伝わるための表現の工夫）

<<各学年の須田ｄｙ科のテーマ>>

１年：だいすき　すだたんけん
２年：須田すてき　たんけんたい
３年：宣伝します！須田ブランド梨
４年：須田を豊かに！信濃川とともに
５年：発信！これからの須田米づくり
６年:対話の力！加茂軍議から知恵探し

（２）実践の紹介

①６年生「加茂軍議から知恵探し」

戊辰戦争の転換点となった｢加茂軍議」を教材化した。この学習を通して、歴史の変化を一個人（河井継之助）に結び付ける単純思考ではなく、当時の人々の考え方や社会背景等を関係付けながら複眼

的にとらえる力を身に付けることを意図した。市史編纂員の協力を得ながら、資料も作成し学習を進めた。

授業では、加茂軍議の場面をミニ劇で再現したり、新政府軍と幕府軍の「新しい国家像」の違いを比較検討したりする中で、当時の人々の問題解決につなぐための対話の知恵を学ぶことができた。

②３年生「宣伝します！須田ブランド梨」

ふるさと・須田で盛んな「梨づくり」。知っているつもりでも、実際の梨畑では、形や色の違う品種や実を包む袋の違いなど、初めて知ることがたくさんあった。そして、梨の特徴を盛り込んだポスター作りをし、市役所などの公共施設にポスターの掲示を依頼し、須田のブランド梨の魅力が外部の人に「伝わる」活動を実施した。

梨畑で触れて、見て、話を聞いて

③２年生「須田　すてきたんけんたい」

自分の身の回りの自然、人、ものについて、関心をもってかかわる経験の中から、今まで気が付かなかった地域のよさに目を向ける活動を行った。

須田地域にある施設を実際に訪ね、働いている人に、話を聞いたり、質問したりして、集めた情報を、須田の「すてき」につなぎ、気付いたことをカレンダーにまとめた。

自分たちだけでなく、赤ちゃんやお年寄りまで幅の広い人達を対象に役立っていること、災害時の場所としても活用されているなど、多面的な理解を深めることができた。

地域の「すてき」を探検

３　成果と課題
及び本実践で育成された資質・能力

須田にある施設で働く人や水から須田を守った人、その水と須田の土から果物や米を生み出した名人など、地域のヒーローと触れ、そして、それらを伝える活動を通して、学校評価の自己有用感が「９５．２％」、ふるさと愛が「９２．９％」と、高い数値を示している。

今年度はコロナ禍で、地域へ働き掛ける学習がなかなかできなかったが、今後はＩＣＴを活用した取組も進めていきたい。

４　おわりに

「ふるさと」の姿は、先人のたゆまぬ努力によって、維持・発展してきた結果であり（お陰様で）、「ふるさと」をよりよい未来につなげていくために、今何ができるか考え行動（お返し）することに、「ふるさと」を学ぶ意味や価値がある。今後もこの学習を継続していきたい。